

2019 年度目録委員会記録 No. 4

第 4 回委員会

日時：2019 年 11 月 9 日（土）14 時～17 時

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、安食、木村、谷口、鴫田、藤井、村上（一）、村上（遥）、横山
<事務局>三浦

[配布資料]

1. 2019 年度第 3 回目録委員会記録（案）（4 ページ-A4、安食委員）
2. 今後の委員会活動に向けてのメモ（2019. 11. 9）（10 ページ-A4、渡邊委員長）
3. 全国図書館大会について（2019. 11. 9 現在）（3 ページ-A4）および分科会タイムスケジュール等調査票（渡邊委員長）
4. 2020 年度事業計画及び予算調書（案）（4 ページ-A4、渡邊委員長）
5. JLA 出版委員会「図書館実践シリーズ執筆の手引き」（4 ページ-A4、事務局）
6. NCR2018 語彙定義の公開・提供検討メモ ver. 1. 0 および付録（16 ページ-A4、谷口委員）
7. 資料集_データ作成事例_20191111 時点（1 ページ-A3、村上遥委員）
8. NCR2018PDF 版修正マニュアル（6 ページ-A4、村上遥委員）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2019 年度第 3 回の記録（資料 1）について確認を行い、確定した。

2. NDL が NCR2018 適用細則の一部を公開（10/28）

NDL が 2021 年 1 月から適用開始予定の NCR2018 の「第 1 部 総説」, 「第 2 部 セクション 1 属性総則」, 「第 2 部 セクション 2 著作、表現形、体現形、個別資料」にかかわる適用細則（案）および「文字の取扱い基準」, 「読みの基準」（ともに案）を 2019 年 10 月 28 日に公開した。

3. 関連する活動

11/2 に谷口委員が IAML(国際音楽資料情報協会)日本支部例会にて「典拠コントロールを問い直す」と題した講演を行った。上記 2. にかかる NDL の適用細則の内容について見解を問う質問があった。

11/4 に全国図書館大会三重大会のウェブサイトに分科会の「報告原稿全文」が掲載された。

[検討事項]

1. 2020 年度事業計画および予算調書について

資料 4 に基づき、目録委員会の 2020 年度事業計画および予算調書について検討を行った。

- ・NCR2018 の維持活動として、公開済の「エレメント・語彙等データ提供」を基にした LOD 提供を検討することを予定するが、この活動について予算は計上しないことが確認された。
- ・NCR2018 の普及活動として、出版委員会の企画に基づく入門解説書の刊行を予定している

が、本企画に関する予算は目録委員会では計上しない（出版委員会が計上する）ことが確認された。

・「目録の作成と提供に関する調査」は、来年度の事業計画には含めないことが確認された。

2. 全国図書館大会について

資料 3 に基づき、全国図書館大会までのスケジュールや、当日の係分担等について検討・確認を行った。

3. 委員会内で出た NCR2018 に関する質問等について

資料 2 の別紙 1 に基づき、これまでに委員会内で出た質問等を確認した。

4. NCR2018 PDF 版修正マニュアルについて

資料 8 に基づき、PDF 版の更新作業方法を確認・共有した。

5. 著作の判断基準について

資料 2 の別紙 2 に基づき、著作の判断基準に関する検討状況を確認した。

・学習参考書の場合は別著作とするのかなど、複数機関で見解が分かれる可能性があるもので、著作の判断基準を関係機関で調整する必要があるとの意見が出された。

6. NCR2018 の解説書出版について

資料 2 の別紙 3 および資料 5 に基づき、解説書の内容等について意見交換した。次回委員会にて目次案を検討することが決定した。

7. NCR2018 語彙定義の公開・提供について

資料 6 に基づき、NCR2018 語彙定義の公開・提供について検討した。

・NCR2018 で規定し採用している実体、エレメント、ボキャブラリについて RDF クラスとプロパティによる定義情報を LOD データとして外部に公開し提供することを目的とするものであることが確認された。

・本語彙定義ではハッシュ URI は採用しない提案がなされた。

・アクセス・ポイントに対応するプロパティの追加について、URI を elements ディレクトリにおいてよいのかが検討された。RDA registry ではすべてのプロパティが <http://rdaregistry.info/Elements/> ディレクトリの傘下であるが、RDA ではアクセス・ポイントはエレメント扱いではないはずで、この Elements がエレメントの意味であるのかどうか判然としない。NCR2018 語彙定義では、実体には <http://jla.or.jp/ncr2018/classes>、エレメントには elements、語彙のリストの用語には terms、関連指示子には rdesig などのディレクトリを使用する案が示されたので、これに倣い、アクセス・ポイントには elements ではなく別のディレクトリを指定してはどうかという意見が出された。

・各語彙に対応する RDA クラス/プロパティを RDA registry の URI を以て示す提案がなされた。対応する RDA クラス/プロパティを調べるのに人手がかかるため、RDA クラス/プロパティのない状態でいったん公開し、その後追加して更新するという提案がなされた。これに対し、RDA クラス/プロパティがなければ LOD データとしての価値が薄く、RDA クラス/プロパティを記録した状態で公開するべきという意見が出された。

・現在提供されている「NCR2018 年版エレメント・語彙等データ」の ID200335 (表現形から著作への関連) と ID200334 (著作から表現形への関連) は「逆方向」の関係であるが、データ上そのような指定がなされていないという指摘が出された。

- ・現在の「エレメント・語彙等データ」ではエレメント・サブタイプおよびサブエレメントの場合に「上位エレメント」を設定しているが、LOD データにおいてはサブエレメントに「上位プロパティ」を設定するのは不適切との指摘があった。
- ・公開の際に、ドキュメント（LOD データに関する説明文書）を一緒に公開すれば、データ自体に多少の不整合があっても使用者にわかってもらいやすいため、ドキュメントの公開が大事との意見が出された。
- ・NCR2018 の語彙定義を LOD データとして公開・提供することにどのような意義があるのかという質問がなされた。これに対し、図書館業務上特に必要なものではないが、図書館外、あるいは研究レベルで作られるデータセットにおいて、そのデータセットのうちのあるデータが指し示すものが NCR2018 で使用されている実体等の概念のうちのどれであるのかを示せるようにしておくことは、LOD の世界では有益であるとの意見が出された。
- ・また、目録データの LOD 化に向けた目録委員会としての姿勢を示すこと自体に意義があるとの意見が出された。

8. データ作成事例について

資料 7 に基づき、データ作成事例の集約方法について検討した。

次回以降の委員会の予定

12 月 21 日（土）

1 月 25 日（土）

2 月 29 日（土）

以上